

さけ稚魚の海中放流（松岩）について

■震災後の放流魚が主体となった大川水系における昨シーズン秋さけ沿岸来遊数は、170,961尾で4年前の放流尾数7,004千尾に対し、回帰率にして2.44%と低調な値となっています。（震災前までの10年平均は回帰率4.51%）

※沿岸来遊数＝大川河川捕獲数＋唐桑・大島地区漁業者の魚市場水揚尾数

■沿岸来遊数が減った原因は、海況の変化や震災の影響による稚魚放流数減少などがあげられ、沿岸来遊数の増加には放流尾数の確保と健苗（丈夫な稚魚）生産が有効な手段となっています。

■今年度の松岩海中飼育事業は、さけ稚魚を外敵から守り、40日間の海中飼育を行っており、減耗を最小限に抑え、稚魚も順調に成長しています。

■本地域沿岸漁業にとって貴重なさけ資源を持続的に確保するため、海中飼育により成長した稚魚を海中放流し、4年後のさけ資源増殖を図ります。

【さけ稚魚の海水移行（松岩）の概要】

- 日時 平成28年3月30日（水）午前9時00分から
※当日は乗船等の準備がありますので、午前8時50分までに下記の場所に集合願います。
- 場所 気仙沼漁港前浜地区（気仙沼市松崎前浜地内）
- 放流尾数 約120万尾
体重 1.79g/尾（平成28年3月17日現在：海水移行時0.70g/尾で1.09g/尾の増）
※体重・体長については、放流前に再計測いたします。
- 事業主体 気仙沼市大川水系さけます増殖協会（事務局：産業部水産課）
会長 気仙沼市長 菅原 茂
- 実施主体 宮城県漁業協同組合、気仙沼鮭漁業生産組合
- その他 当日の海面状況等により延期することとなった場合は、幹事連絡によりお知らせします。